

## かがみの創生総合戦略

### （意見・提言）

#### （1）人口減少に歯止めをかけるための対策

##### イ 若い世代の希望をかなえる少子化対策の推進（自然減対策）

##### ① 次世代育成に向けた意識の醸成

##### ② 安心して家庭を築ける環境の整備（出会い・結婚）

**委員：婚活の取組に関して、状況を教えてもらいたい。**

事務局：昨年度から開催し、申し込みも多く、毎回 3 組程度はマッチングできているが、結婚には至っていない。

**委員：町主催という事をあまり全面に出さず、気軽に参加できるような形でもいいのではないか。**

事務局：婚活イベントは各自治体で広く行われているので、町が主催でも抵抗感なく多くの参加をいただいていると認識している。

##### ③ 妊娠・出産の希望がかなう環境の整備（妊娠・出産）

##### ④ 子育て支援の充実（子育て）

**委員：保育園の受け入れ制度について、国の制度等もあるが、町営の保育園なので、町独自の制度で対応してもらえると、3～4人目へと繋がるのではないか。**

事務局：保育園は国の制度を基に運営している。徐々に国も子育て支援へ力を入れているが、現時点で町独自の制度を導入するには至っていない。

**委員：放課後児童クラブの受け入れができない人数が増えているのはなぜか。**

事務局：児童クラブは現在定員に余裕があれば小学 6 年生まで受け入れられている。施設の定員数により受け入れができない状況の施設がある。現在、来年度にかけて施設の改修改築に取り組んでおり、希望者全員を受け入れができる体制を整えていきたい。

**委員：アンケートからも一番多い意見は経済的支援を要望している現状があるが対策はあるのか。**

事務局：現在計画をしつつあるものはあるが、ここで発表できる状況に至っていない。現時点では今までの継続した取組しかない。

**委 員**：即効性は無いが、所得等を増やす対策が必要。

事務局：補助等を行う事も手段としてあるが、雇用の場を作るのが現実的ではないかと思う。

**委 員**：放課後児童クラブは3年生までで、町独自に6年生までとしているのか。

事務局：町独自ではなく、児童福祉法により6年生までとしている。

**委 員**：病児の一時預かり事業実施病院が2病院と聞いているが、年間を通じて対応は出来ているのか。また、鏡野病院が対象病院となっているが、長い間受け入れが出来ていないと聞いている。改善し対応できる状態にしていきたい。

事務局：病院の受け入れ定数があるので、申し込んでも必ず受け入れができるとは限らない状況にある。鏡野病院の看護師が不足している状況は把握しているが、それが理由で受け入れが出来ないとは聞いている。

**委 員**：町内の岡山子育て応援企業宣言登録企業事業所数が8社しかないのは少なすぎる。広くPRして登録してもらいたい。

事務局：再度全町で広報していきたい。

**委 員**：意見ではないが、都市部では子供が2～3人いる母親は仕事を辞めたいと思っている方が多く、男性の収入が上がると共働きよりも子育てに専念したいと思っていて、働きたい女性と仕事を辞めたい女性の2極化現象が起こっている。一概に収入が増えたと子供を作りたいと思うかは、もう少し統計や調査が必要。病児保育には非常にお金がかかる。都市部は全て有料制度で実施している。予算内での対応と最初から明記した上で事業を進めるのも1つの方法。全てやります受けますで、出来ないよりは住民に理解してもらいながらの対応でもいいのではないかと。

## ロ 人を呼び込む魅力ある郷土「かがみの」づくりの推進（社会減対策）

### ① 産業振興と雇用創出

**委 員**：企業誘致についてどのようなPRを行っているのか。問い合わせはあるのか。

事務局：平成26年に全ての土地を売り切り誘致が完了した。現在は、そこ以外に工業団地等の土地がないため、問い合わせがあっても町として提供できる誘致場所は無い。

**委 員**：企業を巡る体験バスツアーがあったが、町の主催か。

事務局：地元の企業を知ってもらうために、津山広域事務組合で企画し大学生を対象に実施した。

**委員：町内に多くの優良企業がある。学生が都市へ行かなくても地元に残って働くことができるので、そういった企画を積極的に行ってほしい。**

事務局：今年度も実施予定で、今回は高校生を対象に計画をしている。

## ② 移住・定住の促進

**委員：お試し住宅を設置しているが、利用状況はどうか。なぜ1か所しか作らなかったのか。**

事務局：田舎であっても都会化した便利な場所を希望される方が多く、子供の学校や買い物などを考えて場所を希望される方が多い。そういった意見を踏まえて現在の場所を選定した。利用状況は、希望者及び婚活イベント参加者など2～3泊程度で利用している状況で、今後色々なニーズ等でお試し住宅を1～2か所増やして行くことも考えていきたいが今後農家民宿の方の意見も聞きながら、状況を見て検討していきたい。

**委員：企業と組んで移住定住は難しいのか。例えば県外の大企業の定年退職者向けに、企業とタイアップして企画するなどはないか。**

事務局：町内企業でも寮や社宅におられて、退職後は町内に家を建てて移住している方もいる。そうした前例もあるので、全く難しい訳ではないので、提言として今後参考にさせていただきたい。

## ③ 多様な人材が活躍する社会の実現

### ④ 魅力ある子育て環境と教育環境の整備

**委員：支援学級についてだが、学校が終わってからの支援の場所が無い。その子達が行ける放課後デイサービスが近隣にはあるが、現在町内には無い。今後考えていただけるのか。**

事務局：放課後デイサービスについては、重度心身障害の方のみ芳野病院の中にあるが、現状としては津山に行かれています。誘致すればいいのだが、現実的に難しい。

**委員：発達障害等も含め岡山県は小学生の不登校率は全国ワースト1位です。一度町で不登校の調査をし、相談窓口など開設して、いつでも相談できる体制やシステムを作っていただきたい。**

**委員：日本社会では、高校の卒業証書が無いと、様々な技能職の資格を取得する事が出来ない。小さいうちに何らかの形で社会復帰できるような仕組みを作る必要がある。**

事務局：実態把握の仕方を研究してみます。

- ⑤ コミュニティの発展
- ⑥ 安全・安心な地域づくり
- ⑦ 情報発信力の強化

**委員：情報発信という観点で、地域おこし協力隊の良い点は、定住化はないかも知れないが、来てからの3年間で情報発信が非常に多いという点と、国の補助金制度なので、応募して来られる方は、高学歴でスキルの高い方が増えている。その地域にとっては、非常に刺激になり効果が出やすい存在になると思う。**

## (2) 人口減少社会に的確に対応するための対策

### イ 地域の持続的発展のための経済力の確保

#### ① 生産性向上と高付加価値化の促進

**委員：ウランのふるさと研究所構想があるが、今後構想はどのような形になるのか。**

事務局：町、原子力機構、岡山大学の3者共同で行っていますが、将来町内に研究施設を作りたいとの構想がある。それは今、岡山大学が研究しているBNCTホウ素中性子補足療法で、がん細胞にホウ素薬剤が入りやすい特性を使い、そのホウ素剤に中性子を当て核反応をおこし、がん細胞のみが壊れて癌を治療するという方法です。それら施設を作って研究と治療を行いたい。合わせてウラン研究施設を同じエリア内に作って世界に発信して行きたいという構想、計画を現在進めている。

**委員：定住化には、現在外国人向けのSNS発信が流行っている。鏡野には写真等でいいスポットがあるので、今後そのような利用も必要ではないか。**

#### ② 女性・高齢者等の労働参加率の向上

**委員：28年度では施策や対策が無いが今後対策は考えているのか。**

事務局：27年度の途中からの計画策定となり、27年、28年までに新たな取り組みが少なく成果が出にくい状況であったが今後は本日いただいたご意見を反映できるようにしていきたい。

### ロ 地域の持続的発展のための活力の維持

#### ① 地域社会の活性化

**委員：緑のふるさと協力隊は受け入れているが、地域おこし協力隊を**

**なぜ受け入れないのか。**

事務局：緑の協力隊は旧奥津町時代から継続している。現在鏡野町は全国でもトップクラスの協力隊の方の定住率を誇っている。過去に30名程度の方が来られているが、約半分の方が鏡野町に定住しており、間違った事業ではないと思っている。地域おこし協力隊の一番の目的は、都会で働いていた方がその職を辞め、最大3年間の任期の中で移って来た地域で自立して就職や起業をするなどして地域に留まってくれたいことだと認識している。地域からの要望で若い人材が必要なのは認識しているが、その方が3年間で結果を求められる中で、結果を出せるか懸念している。例えば3年後に結果が出なかった場合でも、本人が希望するのであれば商工会が職員として採用し面倒を見るような後ろ盾があれば、募集の中でも明記しながら将来を担保できるような仕組みができればいいのではないかと考えている。絶対地域おこし協力隊を入れない訳ではないので、そのような事も踏まえて今後検討していく。

**委員：緑のふるさと協力隊は継続していただければいい。合わせて地域おこし協力隊についても、例えば商工会が預かる事もできるし、3年間の中で起業等の様々なノウハウを教える事もできる。現実本人が目的を持って来られるので、その状況の中で商工会が出来る事があれば協力したいので、それらも含め検討していただきたい。**

② 行政運営の効率化・最適化、そして施策・事業推進のために連携拡大

**委員：商工会として、6次産業については、農業、林業の方と畑が違うのでマッチングができていない。町を介して商工会とマッチングしていただけたら、何か商品開発や販路の開拓に協力できるかも知れない。**

事務局：水稻の生産者からもち米以外の6次化製品は出てきていない。野菜、トマト、果樹についての6次化製品は、ご存じの通り商工会の協力を得ながらジュースへの加工や、パウンドケーキでの販売を検討している。その他何かあればご相談いただきたい。

**委員：農業機械の補助金や事業等での集約化に力を入れているが、年間を通じて農業で産業に結びついているのかが見えてこない。町として何か指導はしているのか。**

事務局：集約化に関しては、生産者が高齢で将来的に後継ぎがおられない方に関して、農地の集約・集積を行い、組合等で管理する方向にしている。また水稲の半年の裏作に関しては、色々な話も出ているが、現時点では非常に難しい状況で、裏作とは言わないうが餅米と一緒に植えて餅を販売して、6次化製品になっているのが現状です。

#### その他意見

**委員：計画は27年度から31年度の5年間だが、27年度の下期の年度途中から策定した理由、意味は何かあるのか。**

事務局：創生事業自体26年度に国が示し、27年度に計画策定した自治体には創生資金を交付すると提示されたので、年度途中の27年度に計画を策定した。

**委員：全体的に以前からの継続事業が主なものになっている。今までの政策を継続しつつ新たな取り組みが必要ではないかと思う。**

事務局：27年度の途中からの計画策定となり、27年、28年までに新たな取り組みが少なく成果が出にくい状況でありました。今後は本日いただいたご意見を反映できるようにしていきたい。